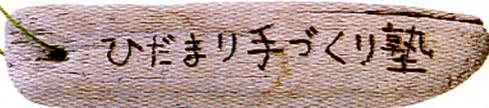


塩山奈央×長谷部雅一 リレー連載



独特の青白い炎でお茶をわかせるアルコールストーブは、静かな秋のキャンプにおすすめ。最近空き缶で手づくりする人も増えています。じつはハセベ君も去年から試作を開始、ついに自信作が完成しました！

長谷部雅一

1977年生まれ。アウトドアスクールを企画運営する「Be-Nature」のスタッフとして、幼児から大人までを対象に自然体験の楽しさを伝えている。11月の某週末、新妻と長野の廻り目平ヘクライミングキャンプに出かける予定。空き缶ストーブでお茶をわかす濃い眉毛の男を見かけたら、それはおそらくハセベ君…です。

「音が静かだし、独特の青白い炎も好きで。ゆったりしたい夜はよく、アルコールストーブでわかしめた湯でコーヒーを飲むんです。市販品は2000円以上するけど、どこにでもあるもの

長谷部雅一の

空き缶アルコールストーブをつくろう



材料 ↑材料は空き缶2個だけ。ゴトクをつくるなら、ホームセンターで0.5~0.8mm厚のアルミ板も用意。20×122mmを2枚とればOK。

道具

→空き缶を切るのは、100円ショップのキッチンばさみで十分。あとはプッシュピン、カッターナイフ、油性ペン、定規、紙やすり。



構造

↓アルコールを注ぐと、内側パーツ下に3か所付けた切り込みから、外側の缶へと流れる。着火すると、上パーツ外縁に24か所あけた小さな穴からも放射状に炎が出る構造だ。



上パーツ



内側パーツ



下パーツ

燃料



↑燃料用アルコールは、アウトドアショップのほか、薬局でも買える。

で手軽につくれなかつと思つて」ハセベ君が見せてくれた空き缶ストーブは、ポケットにも入る小ささで、チタン製のスプーンより軽い。アルミ缶から3つのパーツをつくつて組み合わせれば完成するという。銀色ボディのそいつは「オレはただの空き缶じゃない。世界最軽量のストーブなんだぜ」と嘯いているように、やたらかっこいいのだ。「ポイントはず重構造にしたこと。注いだアルコールが内側から外側の缶との間にも流れ込んで…。真ん中からだけじゃなく、上パーツ外縁の小さな穴からも放射

状に炎が出る仕組みなんです」やわらかいアルミ缶はカッターナイフやキッチンばさみでジヨギジヨギ切れる。穴をあけるのはプッシュピンと、特別な道具は不要。工程を見たら簡単そうだったので、私もさっそくやってみた。缶を真つすぐ切りたのちにギザギザになったり、パーツを力任せにはめ込もうとして歪んでしまつたり。約90分でできたソレは、ハセベ君のとは段違ひにかっこ悪いけど…。「僕も7、8個失敗してやつと今みたいにつくれるようになったから笑。上パーツをはめ込

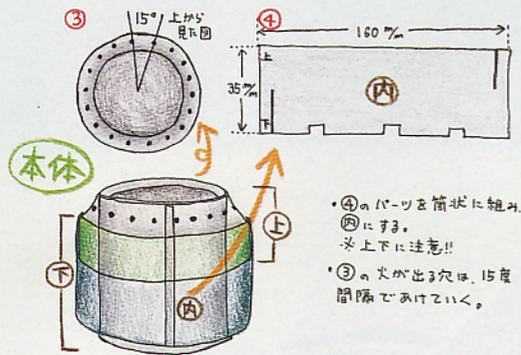
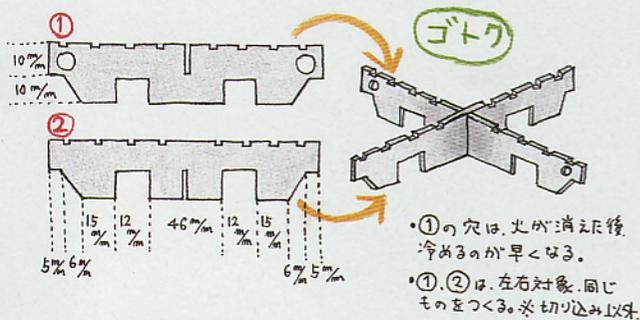
むときは、下パーツの内側に薄い定規などを挟んで隙間をあけながら徐々に入れるとか。何個かつくるうちにコツがわかつてくると思いますよ」とハセベ君。シリアルナンバーのマイスツールに、薬局で買つてきた「燃料用アルコール」を注いで火をはじめた。すぐに炎が上がり、1分ぐらい待つと外縁穴からも出はじめた。水を入れたシエラカップをのせると、青い炎がふわっとカップを包む。…や、やばい、なんだか妙にワクワクするぞ!? 湯がわくまでの時間、私は飽きもせずその火を眺めた。

製作時間60～90分。材料費タダ。空き
缶アルコールストーブは、本体11gと
超軽量！ 余裕があればゴトクもつく
ろう。大きな鍋を載せても安定する。
燃料のアルコールは世界中の薬局で手
に入る。スピリタスなど度数の高いお
酒を飲料兼用で持ち歩いてもいい。





コーヒー1杯分のお湯が、約5分でわきました



アルコールストーブは、世界中どこでも燃料が手に入るのも利点。①キャンプ用品店で買える「ホワイトベア」のアルコールは450ccで788円。②薬局で買える「燃料用アルコール」は500ccで2000〜6000円（うちの近所では388円だった）。ハセベ君の家で試したら、200ccの水が①5分11秒、②5分12秒で沸騰。その差は1秒。今度は野外で実験してみようと思う。「ガスやガソリンと違い、忘れたころにわくのがアルコールストーブの魅力(笑)。キャンプでも自宅でも、あえてこれでコーヒー杯ぶんの湯をわかすと、時間の流れが変わりますよ」
旅先でビールを飲んだ空き缶でストーブをつくり、火で和む時間をゆっくり積み重ねてわいた世界一優雅な一杯はいかが。

空き缶アルコールストーブのつくり方



内側パーツをつくる



←上パーツを切った空き缶の残りを切って、1枚の板に広げる。



←左上の図④のようにペンで印を付けてから、キッチンばさみで切る。



←丸めたら、切り込み部分を重ねて留める。下パーツの底にセット。

ゴトクをつくる



↑アルミ板を20×122mmの大きさに2枚、カッターで切る。さらに図①②のような形に切る。

下パーツをつくる



↑缶底から30mmに切る。厚めの木の30mmの高さにカッターの刃を挟み缶を回して傷を付ける。



↑作業台の上に缶を置いて、傷つけた線の外側をカッターナイフでざざに切る。



↑傷の上をキッチンばさみできれいに切る。上パーツと同様の方法で、缶底から20mmに。

上パーツをつくる



↑20mmに切った缶の底を抜く。プッシュピンで穴をあけてからカッターで切るといい。



↑切り口に紙ヤスリをかける。外縁を24等分して印を付けてから、ピンで穴をあける。